

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム
【変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち】

古典籍がもつ〈情報〉 —過去から現在、未来へ—

同志社大学 文学部国文学科
三宅宏幸 (MIYAKE Hiroyuki)



三宅宏幸 (みやけ・ひろゆき)

【所属】同志社大学 文学部国文学科

【専門】近世(江戸時代)後期小説の研究、特に曲亭馬琴

【関心】近世小説の典拠、挿絵、写本説話、古典文学への誘い



『南里八士傳』巻一
(国立国会図書館デジタルコレクション)

2

1. 古典籍とデジタルアーカイブ



3

1. 「古典籍」とは

日本の古典籍は、慶應4年(1868年)以前に日本で出版・書写された書籍で、内容・形態がともに優れ価値が高い書物のこと。国文学研究資料館が編集した『古典籍総合目録』(1990)の収録範囲は“国初から慶応四年(明治元年)までに日本人が著編、撰訳した書籍(典籍を中心とし文書・記録の類を含む)”と説明されている。文字の転写法によって写本、版本に大別でき、版本は整版と木や金属による活字版に細分することができる。装丁の方法には、巻子本、折装、粘葉装(てっちょうそう)、大和綴(やまとじ)、袋綴などがある。国立国会図書館や大学図書館を中心にコレクションが構築されており、デジタル化の推進に伴い、図書館のホームページから閲覧可能な書物も増えつつある。国文学研究資料館から日本古典籍総合目録データベースが公開されている。

* 日本古典籍総合目録データベースは後に「国書データベース」

(コトバンク「国書情報学用語辞典」より。
<https://kotobank.jp/word/%E5%8F%A4%E5%85%B8%E7%B1%8D-1319207>)



4

国立国会図書館デジタルコレクション

資料デジタル化について
国立国会図書館は、資料原本の保存とサービスの向上を目指し、平成12(2000)年度から所蔵資料のデジタル化を進めています。
「国立国会図書館ビジョン2021-2025-国立国会図書館のデジタルシフト-」でも、資料デジタル化を重点事業の一つとし、取組を加速させています。

(1) 資料原本の保存

紙資料の原本を利用に供することによる汚損、破損を避けるためにデジタル化を行い、原本に代えてデジタルデータを提供しています。

(2) サービスの向上

デジタルデータを提供することで、閲覧や検索における利便性や、障害者を含むあらゆる人々の利用可能性の向上を図ります。著作権等に留意しながら、デジタル化の成果が広く社会的に利活用されるように努めています。

国立国会図書館HP (<https://www.ndl.go.jp/preservation/digitization>)



5

国文学研究資料館

「歴史的典籍NW構築計画」

文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業に人文・社会系ではじめて採択された「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(略称:歴史的典籍NW事業)は、国文学研究資料館が中心となり、国内外の大学等の研究機関・図書館と連携して日本語の歴史的典籍約30万点全冊のデジタル画像化を行い、諸分野の研究利用に資する大規模データベースとしてWeb上で公開し、その画像を用いた国際的な共同研究のネットワークを構築した事業(事業期間:2014年度~2023年度)です。

国文学研究資料館HP (<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>)



6

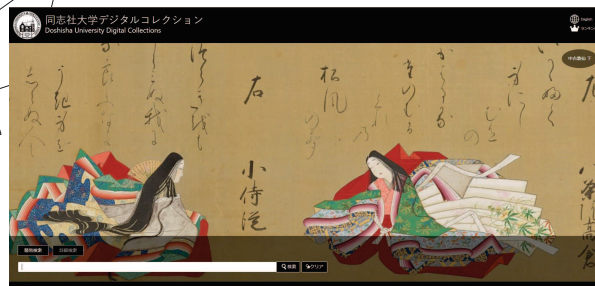
国文学研究資料館では、文系唯一の大規模学術フロンティア促進事業（文部科学省）として、「データ駆動による課題解決型人文学の創成～データ基盤の構築・活用による次世代型人文研究の開拓～」(国文研DDHプロジェクト)を、令和6(2024)年度から令和15(2033)年度までの十年計画で実施しています。

本計画では、国内外機関等との連携による**更なる画像データの拡充**、画像データの**AI活用等によるテキストデータ化**、データ分析技術開発の推進など、国文学を中心とするデータインフラを構築し、様々な課題意識に基づく国内外・異分野の研究者との共同による**大規模データを活用した次世代型人文研究**を開拓することを目指しています。

国文学研究資料館HP (<https://www.nijl.ac.jp/ddh/#section01>)

7

同志社大学デジタルコレクション



8

【参考】古典籍データベース例

- ・ 国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>)
- ・ 国文学研究資料館 国書データベース (<https://kokusho.nijl.ac.jp/?ln=ig>)
- ・ 国立公文書館デジタルアーカイブ (<https://www.digital.archives.go.jp/>)
- ・ 東京大学附属図書館コレクション (<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/lib/library/general/collection>)
- ・ 京都大学附属図書館京都大学貴重資料デジタルアーカイブ (<https://rmdo.kulib.kyoto-u.ac.jp/about>)
- ・ 九州大学附属図書館 九大コレクション (https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_search/)
- ・ 慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション (<https://collections.lib.keio.ac.jp/ig>)
- ・ 早稲田大学図書館古典籍総合データベース (<https://www.wuil.waseda.ac.jp/kotenseki/>)
- ・ 立命館大学アート・リサーチセンター (<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/e/database/>)
- ・ 同志社大学デジタルコレクション (<https://dajcl.doshisha.ac.jp/digital/collections/?lang=0>)

9

2. 江戸時代の板本・写本

—馬琴作品を中心に—

中野三敏『書誌学談義 江戸の板本』 (岩波書店、2010年12月) 「板本書誌学のすすめ」

書誌学とは畢竟、書物を物として扱う技術を学ぶことというに尽きていよう。内容の芸術性や思想性をひとまず措いて、何はともあれそこに確かに存在する物体としての書物の性質を見きわめることであり、いわば書物の物理学である。従って敢えて極論すれば、書誌学の実行に当っては、書物の内容に関わる必要はないともいえる。その代り、それぞれの時代の確かな産物としての書物そのものがある。古典学が学問として成立つためには、**その作品が書かれ、発表されたその時点に立戻って、その意味を考えるしか道はない**と思う。その場合未だ時間を遡るタイム・トラベルを体験し得ない我々に、最も確かに、物として**その時代を示してくれるのが、その原本**であり、それを手にとる事はまさにその時代を手にとる事なのである。(3～4頁)

11

中野三敏『書誌学談義 江戸の板本』 (岩波書店、2010年12月) 「板本というものの性質」

「江戸時代は身分社会だから、すべてについて身分がある」とは宗政五十緒氏の言であるが(『文学』第49巻11号所収、座談会「近世の出版」)、けだし名言である。

この言葉に沿って今少し述べれば、人に関わるすべての事物に身分があるわけ、書物などというものは人と関わる所最も甚だしいもの。〈中略〉物事すべて例外はあり、やつしの意識はあろうが、一般的にいつて江戸の板本は、ややその扱いに馴れてくれば、**外型を見ただけで大まかな内容・種類と時代の見当がつけられる**のも、まさにこのゆえである。長沢規矩也先生は生前、中身を読まなければその本の種類がわからぬようでは心もとないと言われた。(11～12頁)

12

「TRCデータ部ログ」 (<http://datablog.trc.co.jp/2018/03/12183412.html>)

江戸時代の紙というのは、現代のA判・B判のように厳密なものではありませんが、大きさに何通りか判型がありました。基本的に美濃判と半紙というふたつの規格（紙型）があり、美濃判を二つ折りしたもの（タテ27cm前後）を使った本を**大本**（おおほん）、半紙を二つ折りしたもの（タテ23cm前後）を使った本を**半紙本**（はんしほん）と言い、大本の半分のサイズのことを**中本**（ちゅうほん）、半紙本の半分のサイズのことを**小本**（こほん）と言います。〈中略〉大きさ・紙型を見れば、どのようなジャンルの本か、ある程度見当をつけることができるようになってきます。基本的に**大本は学術書や古典**であることが多く、**謡曲本や読本は半紙本**が、人情本や滑稽本、**草双紙類は中本**であることが主流でした。

13

曲亭馬琴について

江戸後期の戯作者。江戸の人。名は解（とく）。通称は瑣（左）吉。別号曲亭・**著作室**主人・**衰笠漁鰭**など。山東京伝に師事し、はじめ黄表紙などを書くが、寛政八年（一七九六）の「高尾船字文」を始めとして読本を続々と著し、それを近世後期の小説の正統に位置させ、ひいては明治期にまで影響を及ぼすものとした。その作風は、中国白話小説に学んで、勤善懲惡を標榜しつつ、雄大な構想と豊かな伝奇性を備え、人情描写にも配慮した。長編の読本に力作が多く、「**椿説弓張月**」「**三七全伝南柯夢**」「**近世説美少年録**」「**開巻驚奇俠客伝**」「**南総里見八犬伝**」など。明和四〜嘉永元年（一七六七〜一八四八）



『南総里見八犬伝』第九輯巻五十三下

（『日本国語大辞典』小学館、JapanKnowledge）

14

蟹行散人『近世物之本江戸作者部類』 （天保5年〈1834〉成立）

（寛政一三宅補）十年戊午（つちのえうま）の春、仙鶴堂〔鶴屋〕が詠る為
に『絵本大江山物語』三巻を綴る〔画は北尾重政也。かゝる絵本株、素より鶴
屋にあり。よりて折々新板を出せり。この冊子の形は**半紙と中本の間なる物**
なれば、中形本と唱ふ。以下做之。この書、明年己未の正月発行したり〕。〈中
略〉（寛政一三宅補）十二年庚申の秋、『絵本武王軍談』五巻を綴る〔**間形本**
（一六）、画は北尾也〕。享和元年（※）、又『絵本漢楚軍談』〔前編五巻、後編五
巻〕共に十巻を綴りて印行せらる。同年又『絵本天神記』五巻を綴る。これら
の絵本は作者の得意にあらず、板元鶴屋が詠へにより。并に画は北尾重政也。

▼『絵本漢楚軍談』は前編享和四年（1804年）刊、後編文化三年刊。

板元は鶴屋喜右衛門。

▼（徳田注）一六 中本。

（『近世物之本江戸作者部類』徳田武校注、岩波書店、2014年6月）

15

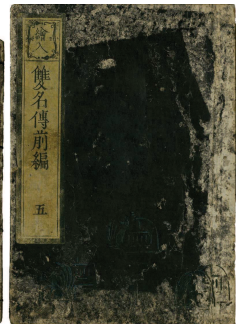
板本の書型



[Z] 『小女郎狐手引仇討』中本
縦18・0cm×横12・3cm
（縦14・9cm×横10・7cm）

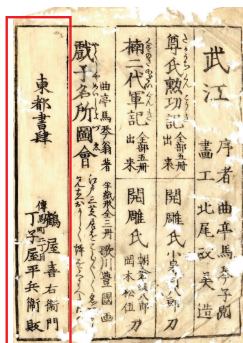


[Y] 『絵本漢楚軍談』中開形本
縦20・2cm×横14・2cm
（縦16・2cm×横11・7cm）



[X] 『双名伝前編』半紙本
縦22・4cm×横15・7cm
（縦19・3cm×横13・7cm）

16



【参考】『絵本尊氏勘功記』刊記（早稲田大学図書館古典籍総合データベース）
https://archive.wul.waseda.ac.jp/koshu/he13/he13_02374/he13_02374_p0053.jpg

17

『南総里見八犬伝』第9輯巻之16 （天保8年〈1837〉正月、丁子屋平兵衛刊）巻末広告一部



いづれも錦絵すりの袋入にて御みや
げものには第一の品なり。
鶴屋喜右衛門から丁子屋平兵衛に
株板が移動

国立国会図書館デジタルコレクション

18

四つ目綴じの位置。
*匡郭（木板本や古活字本
などの刊本の各丁にほどこ
された外枠の線）に重なる。



『繪本尊氏勲記』三十三丁（個人蔵）

19

鴻門の会（こうもんのかい）
「史記-項羽本紀」にみえる
中国の故事。中国、秦末の二
英雄項羽と劉邦が関中の争
奪をめぐって前二〇六年、鴻
門に会したことをいう。項羽
の臣范増は、剣舞にことよぜ
て劉邦を殺そうとするが、劉
邦は臣樊噲（はんかい）の助
けによって虎口を脱する。
〔後漢書-齊武王伝〕
（精選版 日本国語大辞典）



中間形本『繪本漢楚軍談』巻四・三丁裏・四丁表（個人蔵）20



中間形本『繪本漢楚軍談』を中本サイズに改めたイメージ

21

佐藤悟
「『近世物之本江戸作者部類』における読本と物の本」
（『国語と国文学』100-11、2023年11月）

これらの一代記物ともいべき絵本と草双紙の中間的な性格のものである。書型は中本と半紙本の中間のような大きさである。

〈中略〉

『絵本八幡太郎一代記』、『絵本義経一代実記』、『絵本尊氏勲記』、『絵本信玄一代記』も丁子屋平兵衛板が確認されるので、丁子屋平兵衛はこれらの株板を鶴屋喜右衛門から一括して入手したのであろう。「錦ずりの袋入」というから摺付表紙同前の袋に入れて販売されていたことが知られる。これらの作品群は目録の中で読本と同様に扱われ、読本と合巻の境界がどこにあったのかということを考えさせられる。（135～136頁）

22

「自撰自集雑稿」（朝倉治彦氏執筆）
（『日本古典文学大辞典』3、岩波書店、1984年4月）

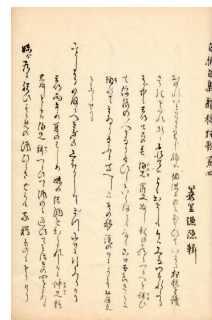
五卷一冊。伝記。菰笠漁隱（曲亭馬琴）作。文政七年（一八二四）六月成立。

【内容】巻一は詩文画賛類、巻二は和歌、巻三は狂詩・狂賛、巻四は狂歌、巻五は俳諧発句で、巻頭に自稿の「曲亭馬琴行状」（署名は「無名氏稿」）がある。記憶による編集であるため、本文の記載は年月順ではない。馬琴の自撰詩歌集であるが、本書の価値は、詩歌集としてよりも、むしろ伝記上の資料として、研究上の参考になる記事が多い点にある。〈中略〉馬琴自身の行動なども含めて、本書によって知られる新事実が少なくない。

【諸本】完本は写本で伝わるが、巻二（一部分）・巻四・巻五（一部分）の自筆本の伝存が知られている。

23

文政七年閏八月七日付小泉蒼軒書翰
（柴田光彦・神田正行編『馬琴書翰集成』①、八木書店、2002年9月）



序ながら、無益之雑談書添申候。愚老年来、人々の需に应ぜし書画賛歌、或ハ偶成の詩歌・発句、是迄ひとつも書留不申候処、当夏ある人の懇によりて、思ひ出し、／＼書きあつ候へば、凡六十余丁の巻になり、『自撰自集』と題し置候。その内、もれたるも忘れたるも多かるべく候得ども、まづ巻ヲなし申候。

←『自撰自集雑稿』
（三宅架蔵、写本。馬琴自筆ではない）

24

菅竹浦氏と『自撰自集雑稿』

馬琴自筆の自撰自集狂歌書なる一冊子を、大阪に於て買ひとることを得ました。それは決してあやしいものではありません。実に驚異に値する珍書であつたといふ事は、大ゲサに云へば国文学史上の一発見であると思さなければなりません

(「読売新聞」昭和2年7月29日朝刊)

果して是れに続く後半が、十数年を隔てた昨今、思ひもよらぬ所から出て来た。正に驚喜すべき事柄である。見ると、前者と同様、馬琴特有の「ふたまた川」とある片面八行の原紙を用ひた事も変わりがなく、本の型〈立五寸六分横四寸〉から綴糸の孔まで、符節を合せたやうに相一致してゐる。

(『書物展望』10巻12号、昭和15年12月)

*立五寸六分横四寸→縦約17×横約12.1cm。中本サイズ。

25

『自撰自集雑稿』の諸本

①国立国会図書館所蔵本(請求記号:213-82)

大本(縦26.3×横18.4糎)五巻一冊。一丁12行。全64丁。

②静嘉堂文庫所蔵本(請求記号:522-2)

大本(縦26.7×横19.1糎)五巻一冊。一丁12行。全64丁。

③京都大学頼原文庫所蔵本(請求記号:Jc78)

大本(縦23.8×横18.3糎)五巻一冊。一丁12行。全64丁。

④三宅架蔵本

大本(縦26.7×横19.0糎)五巻一冊。一丁12行。全63丁(欠丁あり)。

⑤大阪公立大学杉本図書館森文庫所蔵本(請求記号:911.158/TAK)

中本(縦17.0×横12.5糎)一巻一冊(巻二のみの零本)。一丁8行。

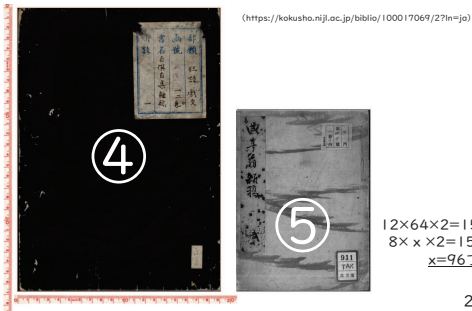
全12丁。[備考]柱刻「ふたまた川」。

26

『自撰自集雑稿』の大きさ比較

②三宅架蔵本、大本(縦26.7×横19.0糎)。

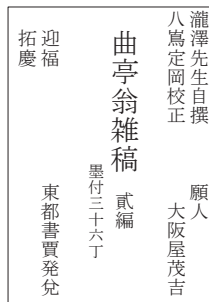
⑤大阪公立大学杉本図書館森文庫所蔵本、中本(縦17.0×横12.5cm)。



27

菅竹浦「馬琴自筆の狂歌稿本完備す」

(『書物展望』10—12、1940年12月)



之を観ると、八島五岳が手を加へたもののやうに思はれ、而して此まゝ出版する意圖を有つてゐた事は、願人の名が明記せられ、それに問屋行事の改印が、ゴ丁寧にニヶ所までも押捺せられて居るので、察せらるゝ。併し馬琴には然うした意志が在たか否かは、多くの疑問がある。

*八馬定岡…岳亭定岡、五岳、丘山とも。江戸時代後期の浮世絵師、戯作者。忠孝水木川(ちゅうこうふたまたがわ)人情本、初編文政八年・二編同一年刊。

←菅氏論の写真版から発表者が図化。

28

三宅宏幸「『自撰自集雑稿』諸本小考—「馬琴自筆本」への疑問—」(『馬琴研究—読本の生成と周縁—』汲古書院、2022年2月)

服部仁「『狂歌現在奇人譚』の馬琴」〈中略〉は岳亭定岡作『狂歌現在奇人譚』後編上巻(文政七年閏八月跋、江戸大坂屋茂吉刊)に載る「○曲亭馬琴の伝 遊民」(目録)の項目が、『自撰自集雑稿』巻頭の「曲亭馬琴行状」を用いていることを明らかにした。その上で、

要するに、岳亭は、『自撰自集雑稿』を借り出して写したのか、あるいは馬琴宅で筆写したのに違いないのである。ということは、『自撰自集雑稿』の成稿が文政七年立夏後ということであり、「○曲亭馬琴の伝」の載っている『狂歌現在奇人譚』後編上巻の跋の年時は文政七年閏八月であるので、岳亭は馬琴が書いて程ない頃に『自撰自集雑稿』を見せてもらい、写させてもらったということになる。

と結論づける。つまり、文政七年成立の『自撰自集雑稿』が文政七年跋の岳亭作『狂歌現在奇人譚』に利用されていることや、先に検証したように、翌八年春に出版される岳亭作『忠孝水木川』の料紙で内⑤「曲亭翁雑稿」の写本が作成されたことを踏まえると、〈中略〉菅氏所蔵本及び森文庫本は、岳亭か岳亭に関係する人物が文政七年頃に原本を写した写本と考えた方が自然ではないか。

29

3. 古典籍の〈情報〉

30

塩村耕氏編『三河に岩瀬文庫あり』
(風媒社、2016年12月)

画像データベースではわからぬこともある。たとえば、初めて見る本を調べる場合、まず本を手にして側面を見る。複数の冊数の場合、微妙に本の大きさが違っていたり、側面の色合いが違っていたりすると、**取り合わせ本**(別々のセットの本を合わせて、欠本を完全にした本のこと)であることがすぐさまわかるからだ。

一冊本でも人造人間のよう**に残欠本をつぎはぎにした例**があり、それは紙をめくると手触りの違いや版面の墨付きの微妙な変化から気づくことができる。そして側面の色合いや綴り穴の状況を手細に見ると、細工の跡が判明する。取り合わせ本であることに気づかぬまま書物を取り扱うと、大きな間違いをしでかすことになる。(67頁)



31

江戸のベストセラー発禁事件は
「高価な紙」のせい？
「修紫田舎源氏」で新説



『修紫田舎源氏』七編上下(和本バンク所蔵)

初編以来14年にわたって刊行が続く『修紫田舎源氏』。幕府による天保の改革の最中、1842(天保13)年に絶版が命じられ、最後を迎えたが、これを**筆禍事件**とする通説が覆る**かもしれない**。奥女子大の佐藤悟教授(日本近世文学)による最新のデジタル顕微鏡を使った調査で、当時の政策に反する**高価な紙を用いていたためだった可能性**が浮上したというのだ。

「封建的な権力者による表現への抑圧ではなく、価格統制の徹底だった。事件の見方は転換を求められる」。佐藤教授が指摘する。

(「中日新聞」2024年5月24日)

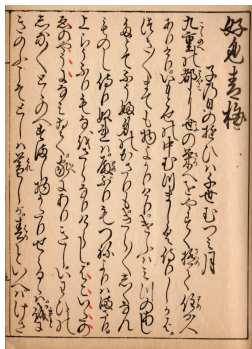
32

『好色青梅』一冊(写本、個人蔵)。浮世草子。
(図版は巻一冒頭)

・古典文庫に影印、翻刻あり。原本の揃い(五巻合一冊)はパリ国立図書館所蔵。巻二の零本を古典文庫編者の蔵書蔵人が所蔵(古典文庫書誌)。

・巻一「△いつよりかわす牛角の契」
「うは口をひそめてあういさまいか(虫損)たすな」(古典文庫)

↓「うは口をひそめてあういさまいか(虫損)たすな」
(乳母、口をひそめて、「ああ幼様、いかのやさなすな」)



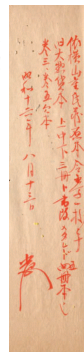
33

野間光辰(のま こうしん)
1909-1987 昭和時代の国文学者。
明治42年11月7日生まれ。浪速(なにわ)高教授をへて、昭和26年母校京大の教授となる。井原西鶴(さいかく)の研究者として知られ、『嵯峨(てるおか)康隆』と『定本西鶴全集』の編集に参加した。昭和62年4月30日死去。77歳。兵庫県出身。号は般庵。著作に「西鶴新攷」「西鶴年譜考証」「近世芸苑譜」など。(日本人名大辞典+Plus)

横山重(よこやま しげる)
1896-1980 昭和時代の国文学者。
明治29年1月22日生まれ。島本赤彦に師事して「万葉集」を研究。のち琉球史料、室町時代物語、古浄瑠璃(じようり)へと研究をひろげて多数の校本を刊行した。昭和55年10月8日死去。84歳。長野県出身。慶大卒。校本に「琉球神道記」「古浄瑠璃正本集」、随筆に「書物搜索」など。(日本人名大辞典+Plus)



〈巻末識語〉
依横山重氏蔵原本(写本)一校畢
旧大徳蔵本 上中下三冊ト書改メタレド五冊本也
巻三・巻五欠本
昭和十六年八月十三日 光辰



34

日本近世文学会【座談会】

「神保町と日本近世文学会—古書店街の見てきた本と人」
(【傍聴記】松永瑠成「本はお預かりもの」——未来へつなぐ本と人」、『近世文藝』121号、2025年1月)

また、デジタル画像データベースの影響については、マイナス面の影響はなく、むしろ画像をとおして本を知ってもらうきっかけになっているという好意的な意見が出され、個人的には意外であった。
〈中略〉

座談会のなかで、橋口氏(発表者補一橋口侯之介氏、誠心堂書店)は「本はお預かりもの」だとした上で、次の世代へと伝えていく、その橋渡しをしているのが古本屋の仕事であり、本を大事にしていけるのは皆さんの仕事なのだとして述べられていた。データベースが充実し、気軽に画像を閲覧できる時代だからこそ、本そのものを大事にしなければならないのである。我々研究者は、本を後世に残す役割を担っているのだと、もっと自覚すべきだろう。(36~37頁)



35

4. 和本バンクについて



36

古典教材の未来を切り拓く！研究会 (通称、コテキリの会)

同志社大学古典教材開発研究センターでは、くずし字や和本を用いた新しい古典教材の開発と実践を目指し、「古典教材の未来を切り拓く！」研究会(通称「コテキリの会」)を年に2回ほど開催しています。

この研究会は、教育に関わる現場の皆様と古典教育に関して意見交換できる場を目指しています。古典嫌いの子どもを減らしていくことができる、学習者の関心・興味を喚起できる教材や実践について、皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

37

古典を学ぶ楽しさをどう伝えていけばいいのか。古典を他人事にせず、現代と結びつけたものとしてとらえ、少しでも古典に共感できるようにするためにはどうしたらよいか。和本やくずし字を用いた古典教材のあり方を提案する書です。

(中略)
古典や古典籍は過去・現在・未来をつなぐタイムカプセルであり、自由に往き来できるタイムマシンでもあります。コミュニケーションツールとしての古典、あるいは、生涯を通して学び続ける喜びを生み出してくれる磁場としての古典を、本書を起点に多くの方々と考え、作っていければと思います。



38

ポプラ社「作家さんと日本の古典を 読んでみた！」全3巻(2024年4月)



新刊を予定
『枕草子』江國香織さん
『おくのほそ道』長嶋有さん

39

同志社大学 古典教材開発研究センター

Home NEWS About Event Archive 教材・実践 コテキリの会 和本バンク Contact

和本バンク

ご覧いただいた和本を、小学校・中学校・高等学校・専修などの学校教育の現場へ貸出・提供しています。和本を授業などで使いたい方は、お問い合わせフォームからご連絡ください。

問い合わせフォーム



40



41

和本バンク 利用実績

小学校、中学校、高等学校(2022年～、35件の申込)

【貸出和本の一例】

(『万葉集』『竹取物語』『源氏物語』『平家物語』『伊勢物語』『徒然草』『蓬萊百人一首千代鑑』『椿説弓張月』『仮名読犬伝』『修紫田舎源氏』『物理学初歩』『地球儀問答』『双六』など)

【和本バンク利用後アンケートの一例】

- ・「昔の人はこれ読めたの？すごい！」などと呟いたりしつつ、「わからない」といながらも頑張ってなんとか読もうとしていました。
- ・古典で学習していたものが、本として残っているんだとわかった、古典の読解も昔の人と同じものを読んでいる、と面白く感じるなと思いました。
- ・こんなに昔の本が残っていて、しかも触ることができて、すごいいい機会で自分はラッキーだと思いました。

42

第12回コテキリの会
2026年3月15日（日）13：30～



43

ご清聴ありがとうございました

科研費（基盤研究（C）24K03674）の助成を受けた成果の一部を使用しています。

